



# さわやか トカラ情報

〒892-0822  
鹿児島市泉町13番13号  
TEL099-227-9771

発行  
十島村教育委員会

## 【旅立ちの時!人生には別れと出会いが付きものです!!】

十島村教育委員会教育長 木戸 浩

2月初めには、桜島も冠雪し、鹿児島市内の高台の地域では、道路も雪が積もり、チェーン規制がなされた所もありました。十島村でも霰が降ったとお聞きしました。温かい黒潮が流れている十島村ですが、北西の季節風はやはり寒さをもたらします。一時期は黄色いツツブキの花だけでしたが、今では百花繚乱、島でもたくさんの花々が咲き乱れているのではないのでしょうか。咲き誇る花々は、人の心を和やかにしたり、勇気付けたり明るくしてくれたりする不思議な力があると思います。その花々に見送られ、今年も14人の9年生が卒業式を終え、すでに「島立ち」をした生徒もおります。留学生の中には1年で地元に戻る子もいますが、十島村での生活はきっと思い出深いものとなり、十島村を第二の故郷と胸に刻んでくれたことでしょう。

また、教職員も異動の季節となりました。6年間勤務された先生もいらっしゃいます。また、1年未満しか勤務されなかった先生もいらっしゃいます。それぞれに十島村での勤務は、教師としての原点であったと思います。御苦勞様でした。そして、様々なタイミングで、学園の児童生徒はもちろん、先生方にも叱咤激励しながら、物心両面にわたって温かい援助をしていただいた島民の皆様ありがとうございました。

別れは淋しいものです。しかし、出会いのあとには、必ず別れがやってきます。その別れは新しい出会いの始まりでもあります。涙を拭いて新しい出会いのために、新たなスタートを切って前に進みましょう。地域の皆様のこれまでの御支援・御協力に感謝申し上げます。

《多くの本に親しみ読みましょう。》

十島村には公立図書館がありません。何年前からスタートしたかは定かではありませんが、教育委員会が毎年新しい本を購入し、「セブンアイランド移動図書」として、30冊ほど木箱に入った7つの箱が1か月ごとに各島を巡回しています。児童生徒用は各学園に、そして地域の方々用はコミセンや公民館に置かれているのではないのでしょうか。その他にも県立図書館からも新刊本をお借りして、同じように巡回しています。

この事業は、1冊でも多くの本と出会い、手に取って欲しいという思いから実施しています。今年度は群発地震が起きたこともあり、いくつかの団体から子どもたちのために寄贈本をいただきました。悪石島だけでなく小宝島、そして宝島にも多くの本が届いています。

今ではKindle(キンドル)などのスマホやタブレットで読んでいる方もいらっしゃるかもしれませんが、やはり実物(紙媒体)の本を手に取り、読むことで内容を理解し、記憶に残るそうです。この前の新聞に全く本を読まない子が非常に多くなっているという記事がありました。その代わり、スマホを使っている時間が1日5時間以上という実態だそうです。大人でさえ、スマホを覗いている時間が多いと感じます。しかもゲームやYouTubeなどです。この現実をどう受け止めたらいいのでしょうか。読書(本を読むこと)は、語彙力を増やし、物事を理路整然と頭の中を整理することにもつながります。日本の文化を大切に守り育てることに必要です。ぜひ1冊でも多くの本と出会い、想像の世界を広げていただけると幸いです。

【お知らせ ; 始業式と入学式の日が変わります。】

これまで、新学級の始業式・入学式は4月7日でしたが、令和8年度から県内の公立学校の多くが、始業式を4月8日に、入学式を9日に変更します。1日で両方の行事を実施してしまうと、1年のスタートの日に学級開きもできず、直ぐに下校させて、入学式の準備をしなければならず、児童生徒もそして先生方も慌ただしいということで、日を1日ずらすことになりました。「学校管理規則」という決まりを変えて、どの市町村でも今後このようになっていきます。但し、曜日によっては(土日に重なる)後へずれる年も出てきます。お知りおきください。

## 十島村で学ぶ

諏訪之瀬島学園 8年 荻原 実咲

島に来て驚いたことはたくさんありますが、特に水泳の授業にはびっくりしました。ここ十島村での水泳は、プールの代わりに海で泳ぐと聞いていました。でも、実際はどんな感じの水泳なのか想像できず、ずっと気になっていました。

そして、当日。港の船溜まりで水泳が始まりました。初めから足も一切つかないとても深い海で、正直不安でした。でも、きれいなエメラルドグリーン色の海で泳いでいると思ったら、一気に幸せな気分になりました。また、海の中には小さな魚がいました。地元の海水浴場では、生き物をあまり見ることがありません。だから、魚を見ることができて、とても嬉しかったです。先生やみんなと入る海はとても貴重で、初めての体験で楽しかったです。

次に、島生活で頑張っていることを紹介します。それは、運動です。私はもともと運動が大嫌いで、これまであまり運動をしてきませんでした。でも、島に来てからは『大嫌い』が『楽しい』に変わりました。体育の授業では、いつもみんなや先生たちと笑いあいながら運動をしています。また、朝のランニング活動のおかげで、走力も伸びてきました。五十メートル走のタイムが一秒以上縮んだり、シャトルランが二十回以上増えたりと、あれほど嫌いだっただけの体育や運動の時間が、私の中でとても楽しい時間になりました。去年までの私が聞いたら、信じられないと思います。島に来たことをきっかけにして、これからも運動に挑戦していきたいです。

私が島に来て成長したことは、「一回やってみる」ということです。今までやったことがないことは、逃げてやらなかったのですが、とりあえずやってみるという方向に進化できました。島に来る前よりもできることが増えて、とても嬉しいです。



令和8年1月19日 南日本新聞「若い目」

### フランスの友きつと会える

悪石島学園 6年 レニユエル美冬

「瀬を早み 岩にせかる 滝川の われても末に 逢わむとぞ思う」この和歌は、百人一首の一つです。「岩にせき止められた急流が、二つに分かれても一つになるように、今はあなたと別れても、将来は必ず会おう」という意味が込められています。

この和歌を知って、思い出したことが一つあります。私は、フランスから悪石島に4年前に引っこしてきました。

日本に来たとき、3歳のころから一緒にいる親友とはなればなれになりました。もう二度と会えなくなってしまうと不安に感じていました。

でも、今は、この歌のように大好きなフランスの親友にきつといつか会えると信じています。

人の心を川に例えた何百年前の和歌。同じ気持ちであることを不思議に思うとともに、勇気をもらいます。



### 5年ぶりの全島開催(十島ファミリー劇場)

令和2年から新型コロナ感染拡大防止等の理由により十島ファミリー劇場の全島開催が実現していませんでした。2月28日平島の公演によって5年ぶりの年度内全島実施ができました。



## 【小宝島学園からのメッセージ】 小宝島学園 教諭 谷山 香里

「いつも心に音楽を♪」この言葉は、私に吹奏楽を教えてくださいました小学校の恩師の言葉です。

小宝島では、「小宝島慕情(ぼじょう)」という歌が歌い継がれています。歌詞から、島の穏やかな情景や自然の豊かさがよく伝わってきます。曲想は、「123,456」と8分の6拍子の曲で、私は、寄せては返す波の様子を表していると感じています。

小宝島学園の児童生徒は、文化祭と卒業式にみんなでこの歌を歌います。将来、島立ちをした児童生徒や山海留学生在がこの島で過ごした大切な時間を思い出すとき、この歌と一緒に口ずさんでほしいなと思っています。そして、私たち教師もこの歌とともに、小宝島での貴重な経験を思い出すときがくると思います。そのような未来のことをいつも思い描きながら、今日も笑顔いっぱいの児童生徒と音楽で心をつなぎます。

小宝島慕情  
濱崎 琴也 作詞 新地 雅子 作曲

1番  
小島の沖に 日が昇り  
しらすぎ群れる 牧場には  
すみれの花 しゃりんばい  
白百合ゆれる 岩場から  
てんばいかおる 磯辺まで  
小宝島は 花の島  
心をあわせ 花に舞う



2番  
赤立神に 寄せる波  
糸をたれば へきはねて  
春はとびうお 秋さわら  
蛇皮のしらべに 踊りの輪  
豊年招きの 夜が更ける  
小宝島は 歌の島  
声をそろえて 風になる



3番  
夕日に映える 竹ん山  
渡るさしばも ひと休み  
そてつたけのこ つわにがな  
海に畑に 島おこし  
小さな島に 意気高く  
小宝島は 夢の島  
手をとりあって 空駆ける



どうとくで  
お手つだいで  
「おんるんるん」の気持ちに  
なることがわかりました  
そのあとわたりました  
先生のお手つだいをしました  
水やりとねつたりをしました  
とても楽しくなりました  
「おんるんるん」  
と思いました



子供のうた  
(一月二十一日  
南日本新聞掲載)  
小宝島学園一年  
中村 まどか  
るんるんるん

南北160km「心をつなぎ 気概に満ちた」十島の教育

令和6年7月20日 南日本新聞「若い目」

鹿児島県自作視聴覚教材コンクール入賞

トカラマソン子どもたちの活躍

生涯学習県民大学講座の御案内

島めぐりマラソン大会  
子どもたちの”おもてなし”

令和8年1月13日 南日本新聞「若い目」

令和7年 月 日 南日本新聞「若い目特集」

せわやがトカラ情報

子供のうた

(十月十七日  
南日本新聞掲載)

もみじの木

中之島学園 三年  
玉城 穰

秋の木を  
かんさつしていたら  
どんだん葉っぱが黄色くなった  
つぎは赤くなっていった  
そしてとうとう葉っぱが  
なくなった  
その木でぼくは  
たくさん木のぼり  
今ではぼくの大しんゆう  
またあしたね



スマホの使い方  
宝島学園 8年 竹内 楽花